

# 商業教育支部だより

2010. 8. 25

第65号

愛媛県高等学校教材センター商業教育支部

松山市旭町 松山商業高等学校内

編集 商業教育支部  
事務局  
印刷 川邊印刷(株)  
(941-4586)

## 視聴覚教材について思うこと

松山商業高等学校定時制 教諭 小川里美

この原稿依頼が来てから改めて「視聴覚教材」とは具体的にはどんな教材をさすのかを考えてみた。もし「視聴覚教材を使った授業を」と言われたら、プレゼンテーションソフト（パワーポイント等）を使って授業をしようと思う。しかし、いろいろと調べてみるうちに、誤解をしているのではないかと感じるようになってきた。

「視聴覚教材とは、画像（写真・図等を含む）があるというだけでなく同時に音も発している教材」のことを指すのではないかと思えてきたのである。というのも、具体的にはビデオ、DVD、映画がそれに当たると調べたものを書いてあったからである。そう考えてみると、近年増えてきているインターネットやプレゼンテーションソフトの教材は音が伴えば視聴覚教材になり、音がなければ視覚教材で終わってしまうことになるのだろうか。

授業では実際に視聴覚教材を使ったことがないので、視聴覚教材を使った研修会に参加して感じたことを書いてみる。最近では、ほとんどの研修会でテレビの録画されたものなどの視聴覚教材が使われている。主な映像機器に用いられるものはパソコンで、研修会の途中で使われることが多い。時間は5分から20分程度。さまざまなことが分かりやすく説明されているので、文字や口頭だけの講義と比べると内容を理解するのはしやすいかもしれない。見ているときには、いろいろなことを感じるができる。しかし、見終わって時間がたつと内容だけでなく、そのとき感じたことなども忘れてしまっていることが多いことに気づく。

近頃ではパワーポイントが使われた研修会では資料が配布されている。大抵の内容であれば、後で再び見返すことが可能である。しかし、ビデオなどで流された動画に関しては視聴したもののタイトルなどは表記されているが、どんな内容かということについては資料にもない。また見終えた後の残り時間を考えるとき、時間が押してきていることも多く、ビデオの内容を振り返る時間もないことが忘れてしまう原因だと思う。さらに、時間が押してきているだけでなく時間不足にも陥りがちで、視聴後の講義が簡単に終わらされていることも多い。一見、いろいろなことを短時間で伝えられて便利な教材に思えるものだが、使うためにはこれらを解消できないと効果はなかなか得られないのではないかと思えてくる。

実際に使うことになったときには、教材の内容はもちろんのこと、視聴までの時間、視聴する時間、視聴後の時間（教材の内容を復習する時間とそれ以外の時間）を考えて授業の構成を考えてみようと思う。これが効果的な方法かどうかは分からないが、試行錯誤で効果的に使えるようになりたいと思う。

# 視聴覚教材について思うこと

新田高等学校 教諭 市川 勇 嗣

視聴覚教材のみならず、教材全般において、驚くべき変化の足音が聞こえ始めている。電子黒板の導入は事業仕分けの波に飲まれてしまったものの、普及に大きな期待がある。3D黒板から実物大のホオジロザメが登場するであろうし、人体解剖すら血を流すことなくシュミレーションできる。教科書においても、電子書籍の普及により電子教科書が導入されることが容易に想像される。韓国では、今年、すでに電子教科書の検討が本格的なものとなった。コスト・インフラ両面から試算して国益となると考えているようである。教科書が電子教科書となった時点で、視聴覚教材という言葉は消える。電子教科書そのものが視聴覚教材であり、教科書が視聴覚教材であって当然となるからだ。ipadなどの情報端末を持参し、電子黒板から板書が転送され、赤外線によって小テストの答案を送信するといった日も、さほど遠くではない。

知的財産の取り扱いについても、大きな変化が生まれつつある。日本の音楽業界で楽曲をダウンロードする場合、有償であるが、アメリカでは、ほぼ無償になりつつある。人気のある楽曲提供サイトに、スポンサーが加盟し、著作権はスポンサーが負担する。投稿動画サイトの急増により、違法ダウンロードの取締りが困難な中、アーティストが適法サイトの需要に迎合することも、生命線の維持には苦渋の選択であるかも知れない。電子書籍においても同様な状況が予想されるなら、筆の遅いことで知られる有名作家が立て続けに三冊も小説を書き上げるよう執筆を急いだことも無理もないのかも知れない。

情報技術の進化に伴って、学生の学習能力は加速度的に向上しているかという、現実はそうではない。九九の記憶や加減算の繰り上がり、繰り下がりが不十分なものも少なくない。それは、文明が進化したせいで、考える力を失ったのだろうか。いや、考えることそのものを教育が教える機会が失われているからではないだろうか？結果ばかりが評価の対象となってしまう、悩むことや失敗したことから学ぼうとする機会を持たなくなったからではないだろうか？

商業教育がこれまで社会の急激な変化に即時的に対応できたのは、その特性のゆえんではないかと考える。情報教育ばかりではなく、簿記を中心とした会計学そのものがリスクマネジメントであり、実際の経営や現実の経営に直結するものである。教科書そのものが「考える力」なしには成立せず、常に新たな課題を解決しようと考え続けたからであると考え。そして、先生方が生徒の実情に応じて、なんとかしてでも教え続けた努力の上に、今の商業教育が成り立っていると考える。今まで勉強ということをしたことのない生徒に資格取得にむけて学ばせるわけであるから、個々に対応することは、どれほど困難であることであろうか。しかも、国語や数学、英語に比べて、教材が少ない。小テストを自動的に作成するソフトなんて存在しない。それでも生徒の実態にあわせ、小テストをつくり、教材を作り続けてきた。愛媛県の商業教員は、それぞれが優れた問題解決能力を持っている。しかし、転勤に伴い、せっかく積み上げてきたノウハウ、学校の実情における対応、すなわち知的財産を無駄にってしまうことは、もったいない。それぞれの先生方がそれぞれの学校に応じた指導法を、小テストやプリント、学習指導計画において持っているはずである。

情報技術の進化した今、それらの知的財産を結集させる必要があるのではないか。先達たちの授業を録画し、残すのもよいであろう。私なら、この授業を一年間録画してほしいという先生が何人かいる。必要に応じては動画サイトとしてアップしてもよいのではないか。授業で分からなかった内容も、「商業教育研究会のサイトで授業を視聴したとき、やっとわかった」ということもあるのではないだろうか。本校においても、授業で使用しているプリントは、実施後、複数の教員で毎回検討し、改訂し続けている。常に相互に検討しあい、成長させていくところに、私たちの商業教育の未来が存在すると信じてやまない。

# 視聴覚教材について思うこと

愛媛県立今治南高等学校 教諭 安野喜章

視聴覚教材の最近の活用事例といえば、ホームルーム活動において、50分の中の30分を説明にあて、後の20分で視聴覚教材を見せるということがあった。視聴覚教材を見せることにより、映像と音声によって、疑似体験をさせ、感情移入を進め、話の内容に具体性を持たせた。ただし、音声に伴うため、視聴覚教室でない普通教室の場合は、スピーカーやアンプ等の準備が必要であった。

視聴覚機器はVTRやDVDプレーヤーに加え、液晶プロジェクターが必須になり、スクリーンの準備が必要になっている。そして、ハード面ではパソコン、ソフト面ではプレゼンテーションソフトウェアの存在が大きい。視聴覚教材を見せる前の説明の中で、プレゼンテーションソフトウェアで作成したスライドを見せることにより、話の焦点を明確にすることができる。

商業の授業では、全商珠算・電卓実務検定ビジネス計算部門の導入での説明や、全商情報処理検定筆記問題の説明で、パソコンとプレゼンテーションソフトウェアを利用している。ここでは、教材を生徒一人ひとりのパソコンに教材提示して授業を展開する。教室で黒板やプリントを使った授業と比べると、格段に手間がかかる。しかし、教える側にとっては、教える内容をあらかじめ整理・精選するため、授業の焦点がはっきりするという点がよく、生徒にとっては、黒板のチョークの字が見えにくいとか、教員の説明が聞き取りにくいなどということがない点でよいと思われる。また、教える内容について、時間が十分につけられない場合には、この方法が有効である。

家電量販店で売っている家庭用テレビは、情報技術の進展に伴い、鮮明な画像とはっきりと聞こえる音声を視聴者に届けるものであり、さらに文字図形情報を視聴者に提供するものとなっている。また、テレビ番組では、インタビュー等では話し言葉が文字テロップで表示され、視聴者に正確に情報を伝えるようになっている。このような「デジタルな」社会で、黒板とチョークという一斉授業の形は「アナログ的」と言ったら言い過ぎであろうか。一斉授業でパソコンやプレゼンテーションソフトウェアや、視聴覚教材を使うことも、この「デジタルな」社会を生きる生徒たちには適しているのではないかと思う。もちろん、教員の中にはすばらしい話術を持たれていて、黒板にチョークで板書をしながら、生徒一人ひとりに問いかけを行い、生徒全員の目を見ながら授業展開をすることができる方がおられるのも事実である。パソコンの利用は授業内容の導入であり、やはり知識や技術の定着は個別指導による反復練習である。

パソコンの画面を液晶プロジェクターにより、黒板に貼り付けた携帯型スクリーンに投影しながら展開しているホームルーム活動を参観したこともあった。生徒の視線を向けさせる一つの方法として、視聴覚機器及び視聴覚教材の効果的な授業への取り入れ方については今後も研修を積んでいきたい。また、魅力ある視聴覚教材の作成について今後も考えていきたいと思う。

平成21年度 教材センター商業教育支部 学校別教材貸出統計表

使用機関	加 盟 校									合 計
	三 島	新居浜商業	新居浜南	丹 原	今 治 北	松山商業	東 温	八 幡 浜	宇和島東	
クラス数	24	12	9	13	24	27	24	22	24	
					分3	定4		定4	定2	
4 月	36					14				50
5 月	36					30				66
6 月	50	4		2	6	26	6	8	12	114
7 月	64	8		9	12	33	12	16	24	178
8 月	64	8		10	8	24	12	16	24	166
9 月	64	8	6	5	8	10	12	16	24	153
10 月	47	8	6			16	12	16	24	129
11 月	30	8				16	12		24	90
12 月	30	8				16	12		24	90
1 月	30	8				16	12			66
2 月	12	8				10				30
3 月		8								8
合 計	463	76	12	26	34	211	90	72	156	1,140

平成22年度 教材センター商業教育支部 役員一覧表

支 部 長	愛媛県立松山商業高等学校校長	平 岡 徹
顧 問	愛媛県教育委員会指導主事(商業)	田 中 圭

	学 校 名	理 事	運 営 委 員
東 予	三 島 高 校	谷 村 雄 二	平 塚 敏 和 (三 島 高 校)
	新居浜商業高校	森 岡 昭 彦	重 松 俊 司 (新居浜商業高校)
	今 治 北 高 校	矢 野 由 久	松 中 浩 (今 治 北 高 校)
中 予	東 温 高 校	大 森 治 幸	伊 賀 上 久 美 (東 温 高 校)
	大 洲 高 校	徳 永 晴 樹	◎高須賀 元 二 (松山商業高校) ○谷 村 和 美 (松山商業高校)
南 予	八 幡 浜 高 校	吉 岡 逸 郎	菊 池 光 広 (八 幡 浜 高 校)
	宇和島東高校	松 本 喜 一 郎	藤 川 淳 平 (宇和島東高校)

(注) ◎ 支部主任 ○ 支部担当

事務局よりお願い

◎ 教材センターの利用について

- (1) 教材使用計画表を参考にしてください。  
なお、教材使用計画表は、商業科主任宛にeメールで送付しています。
- (2) 2～3学期分の教材使用計画表は、商業科主任宛にeメールで送付しています。
- (3) 申し込み方法は、電話・FAX等をご利用ください。随時、受け付けています。  
なお、教材借用申込書は、貸出決定校にのみお送りします。
- (4) 教材の発送費は、利用校負担となっています。  
なお、指定業者がある場合は、御連絡ください。